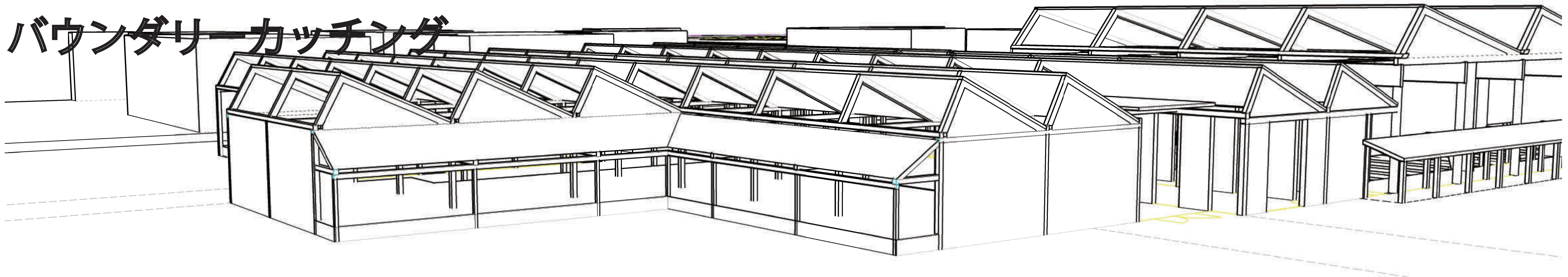


バウンダリーカッチング



リサーチ

1. 福田の歴史

磐田市福田地区（旧福田町）は古くから農業・漁業・製塩・海運などで人々は生活していた。江戸時代には、生活の必要性から帆布が作られるようになり織物業の土台が出来ていた。そして、1830年代、大和地方（現奈良県）から雲斎織りの技術が伝えられ、明治初頭（1868年頃）には5戸ほどの織物業者が操業していた。

信州からの足袋底織が伝わったり、研究が進んだりして福田の織物業者は急激に増加した。こうして、明治14年（1881年）頃には、福田町には42戸の織物業者が操業していた。

一方、明治27年（1894年）には、海外から東京に輸入されたコーデュロイ（コール天）、ベルベット（別珍）という織物を日本でも作ろうと福田町に持ち帰られた。福田には雲斎織りや帆布などの厚手の織物を作る技術があったこと、綿糸や布の配送に便利な港（福田漁港）があったことが強みになって、コーデュロイや別珍の一大産地と発展していった。

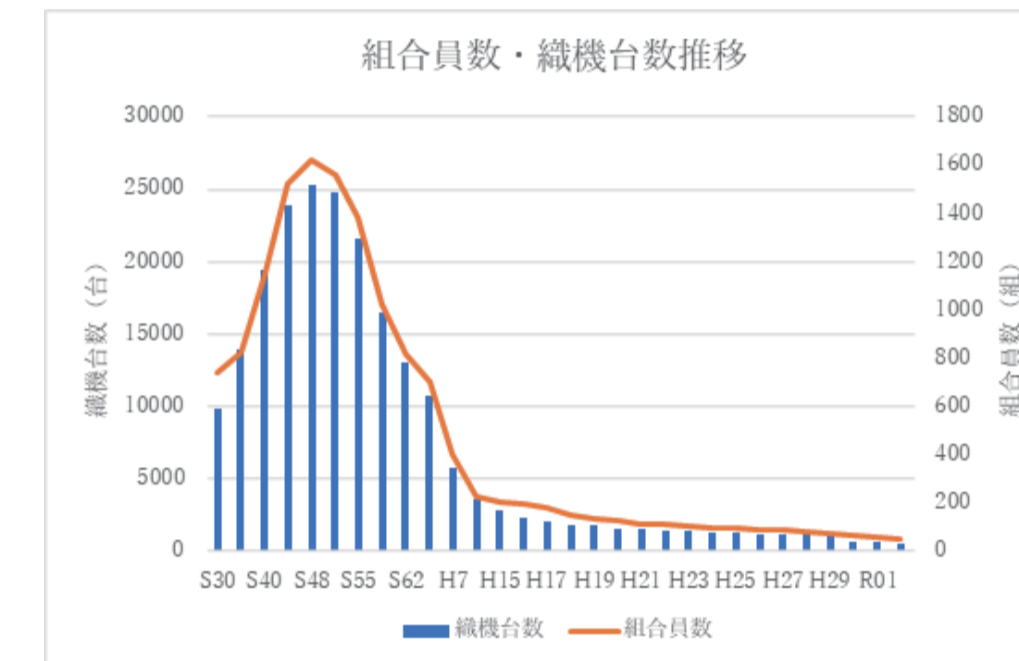


2. 福田のノコギリ屋根工場の現状

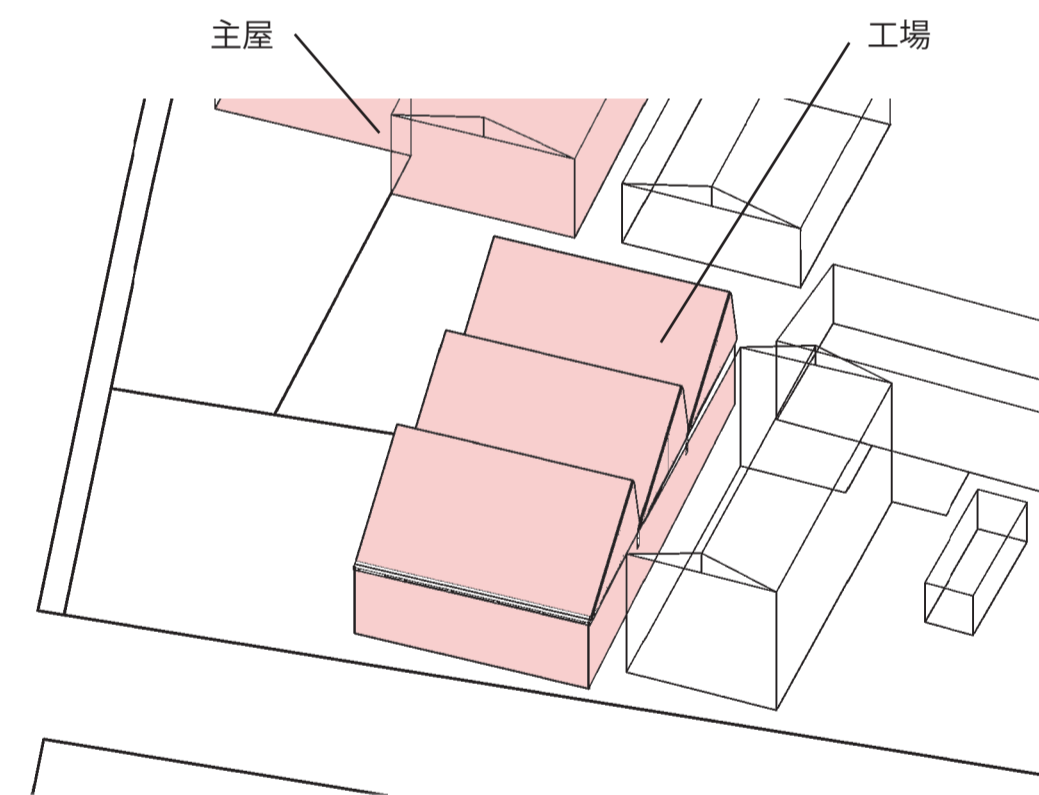
昭和48年には、組合員数・織機台数が最大値に上るも、海外の安価な製品の輸入により需要が減少し、規模が縮小した。現在でも織物工場として機能しているものもあるが、その数は少なく、多くの鋸屋根工場は空き家や家庭の物置となっている。

現在、織物業者として働いている方々のほとんどは2代目であり、規模が縮小していく中で3、4代目となる後継者が現れず、高度に発展した技術が失われてしまいそうな状態にある。工場が使われなくなり、老朽化や維持に手間がかかるなどの原因で、使われなくなったり取り壊されたりなどして、その数が減少している。

中には飲食店やホール、他の職場として使われている工場があるが、福田町の歴史を物語る価値のあるものとして、鋸屋根工場を残していこうという意識は、全体としては薄い。



3. 福田のノコギリ屋根工場の可能性



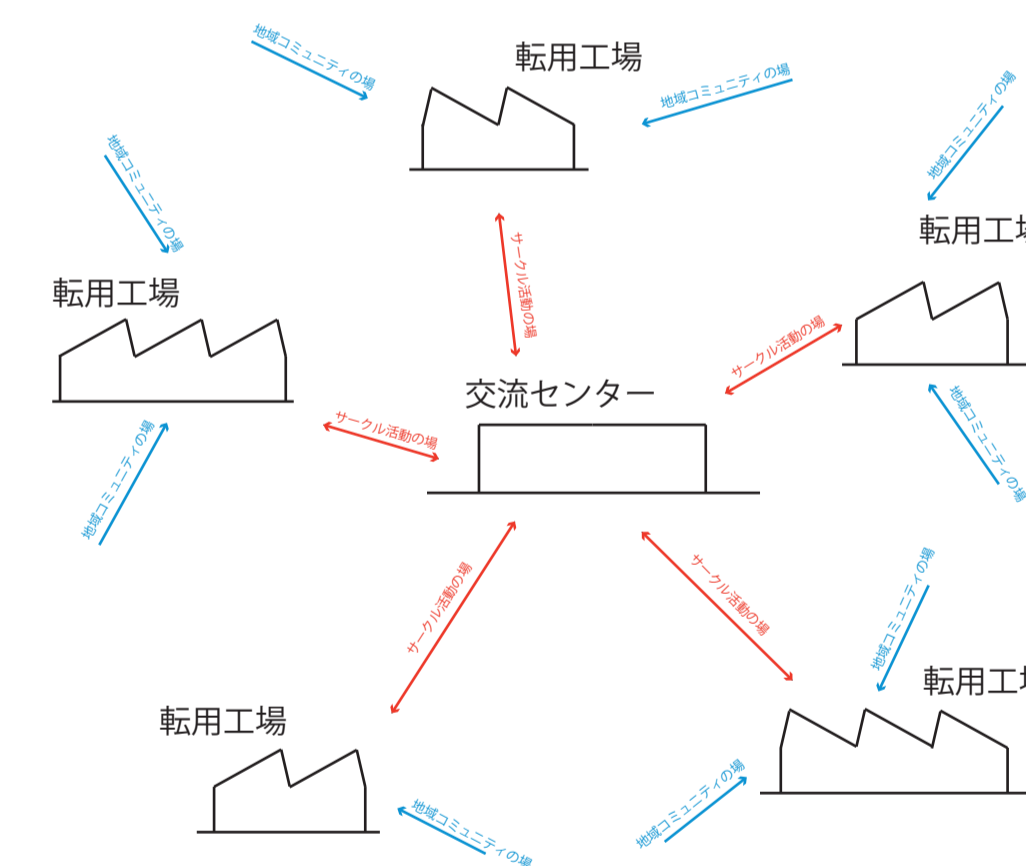
町と工場の関係の一例

福田の織物工場の特徴は、延床面積にして100～200㎡台と織物工場としては比較的小規模なものがほとんどで、そのような工場が住宅の敷地の中にあるという点である。

かつては、コール天・別珍という織物の製造工程を各工場で分業していたことがあり、福田町の中に小規模な工場が町の中に現在も点在し、福田の自然な風景として残っている。ノコギリ屋根工場が福田町全体として地域の歴史を物語るものとしての意識は薄いですが、このような特徴を持った工場を新たに違う場として転用することで、

- ・ノコギリ屋根工場が地域のアイデンティティであることを知ってもらい、使われながら残していく
 - ・地域に新しいコミュニティが形成される
- これらの2点を実現することができる。

全体計画～5つの転用工場と交流センター～



- ・工場として機能していない工場の転用（5戸）
 - ・福田中央交流センターの新築。
- この2つをもって工場を残していきながら、新しいコミュニティを形成する。

交流センターは市内に23か所あり福田中央交流センターはそのうちの1つ。

- ・ホール、会議室の貸出し
- ・福田内の各自治会の事務的なサポート
- ・定期的なイベントの開催

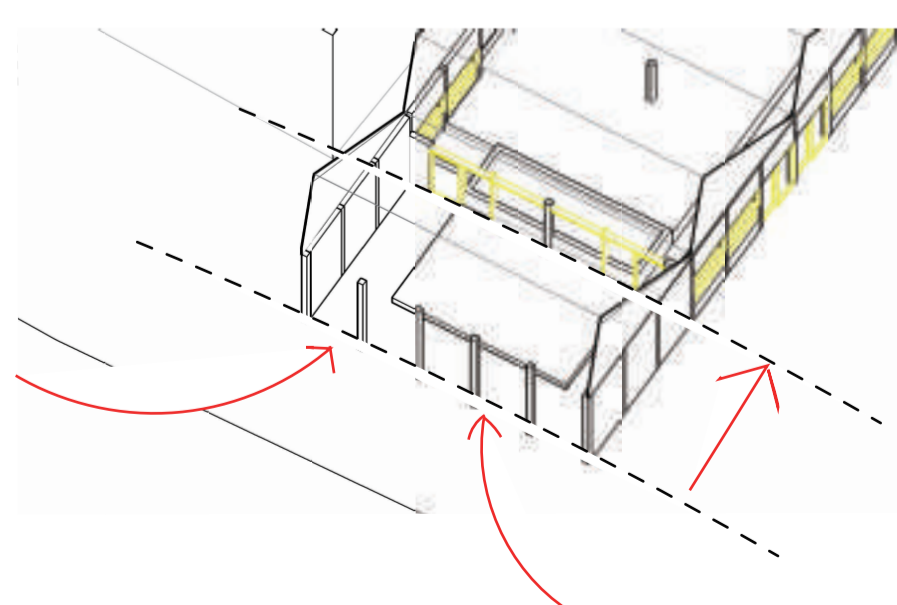
これらが主な交流センターの役割で、41サークルがここを拠点に活動をしている。

サークルの普段の活動場所を町に点在した工場に移し（サークル活動に使用されていないときは開放された交流の場）、特別な時に交流センターを使用する。

そうすることで町に新たな動き・交流がうまれる。

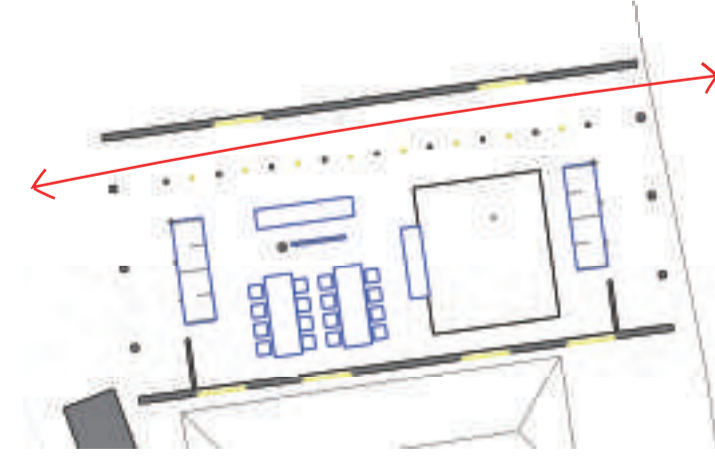
工場がまちと関係をつくりだす6つの手法

1. まちの縁側



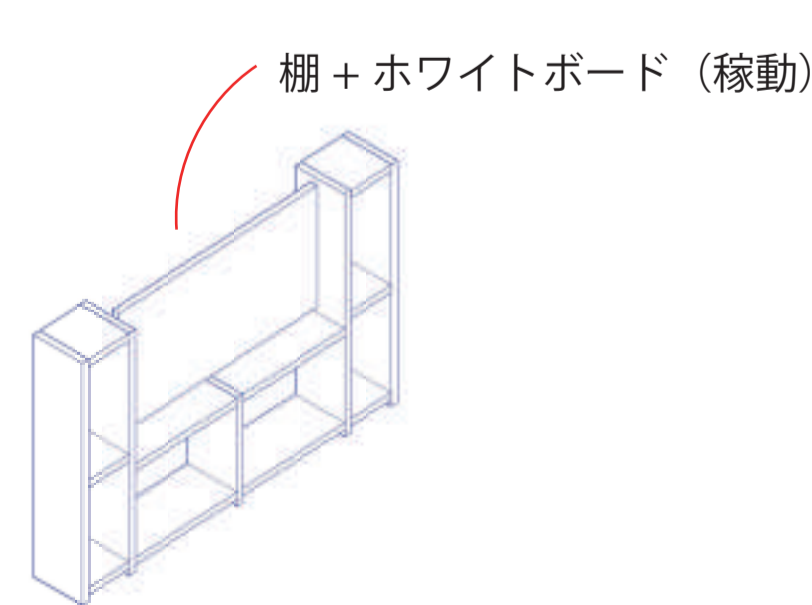
内外の境界をセットバックし気軽に立ち寄れる場をつくる。

2. まちの路地



通り抜けられる道をつくり、この場が日常的なものになる。

3. まちの掲示板



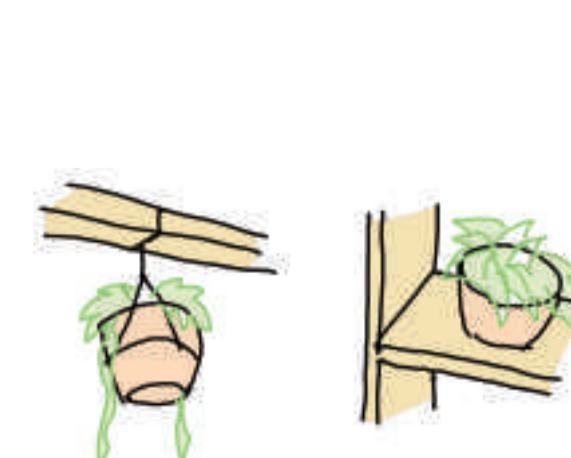
動かして場を緩やかに仕切ることができる

4. まちの棚



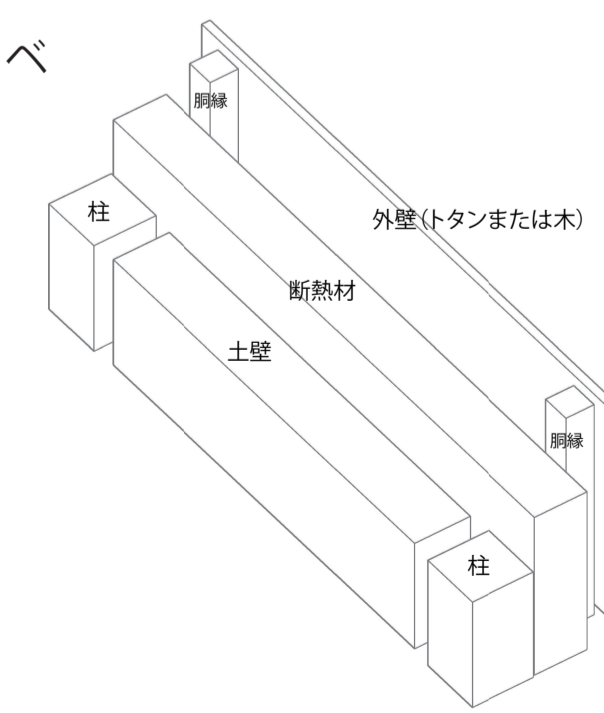
工場壁面にあり、中の活動が飾ってあるものによって見えとくる

5. まちの植物



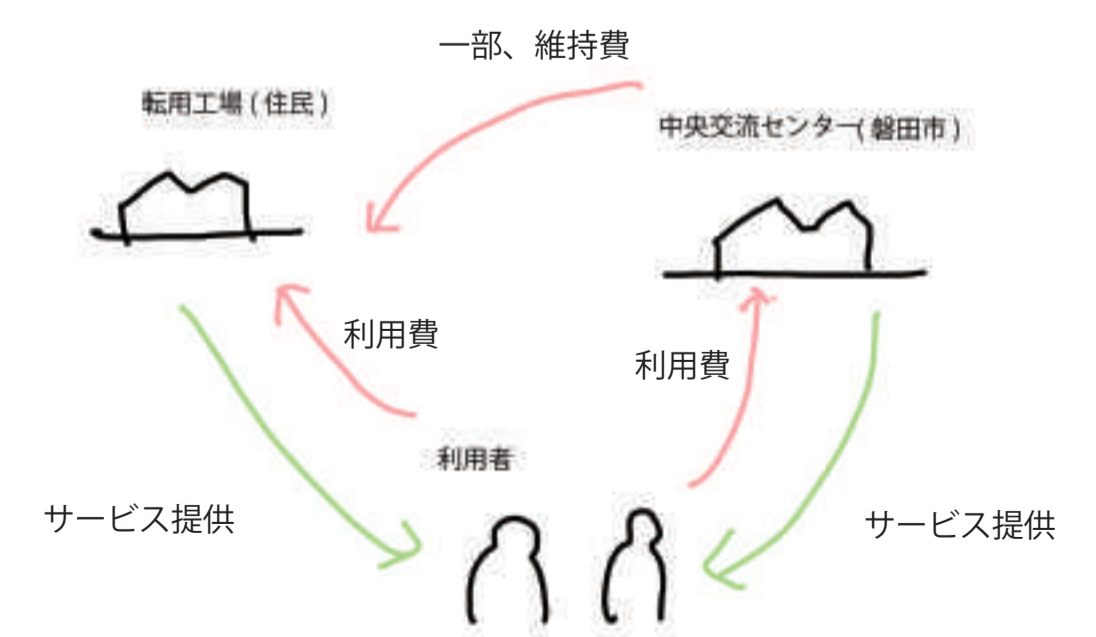
屋根の採光面を活かして、植物を置く。ガーデニング感覚でこの場に愛着を持ってもらう。

6. まちのカベ



既存の構造体、土壁を残しながら新たに断熱材を入れる。外壁は元の材料を使用し景観を維持する。

プログラム



福田中央交流センター (1)

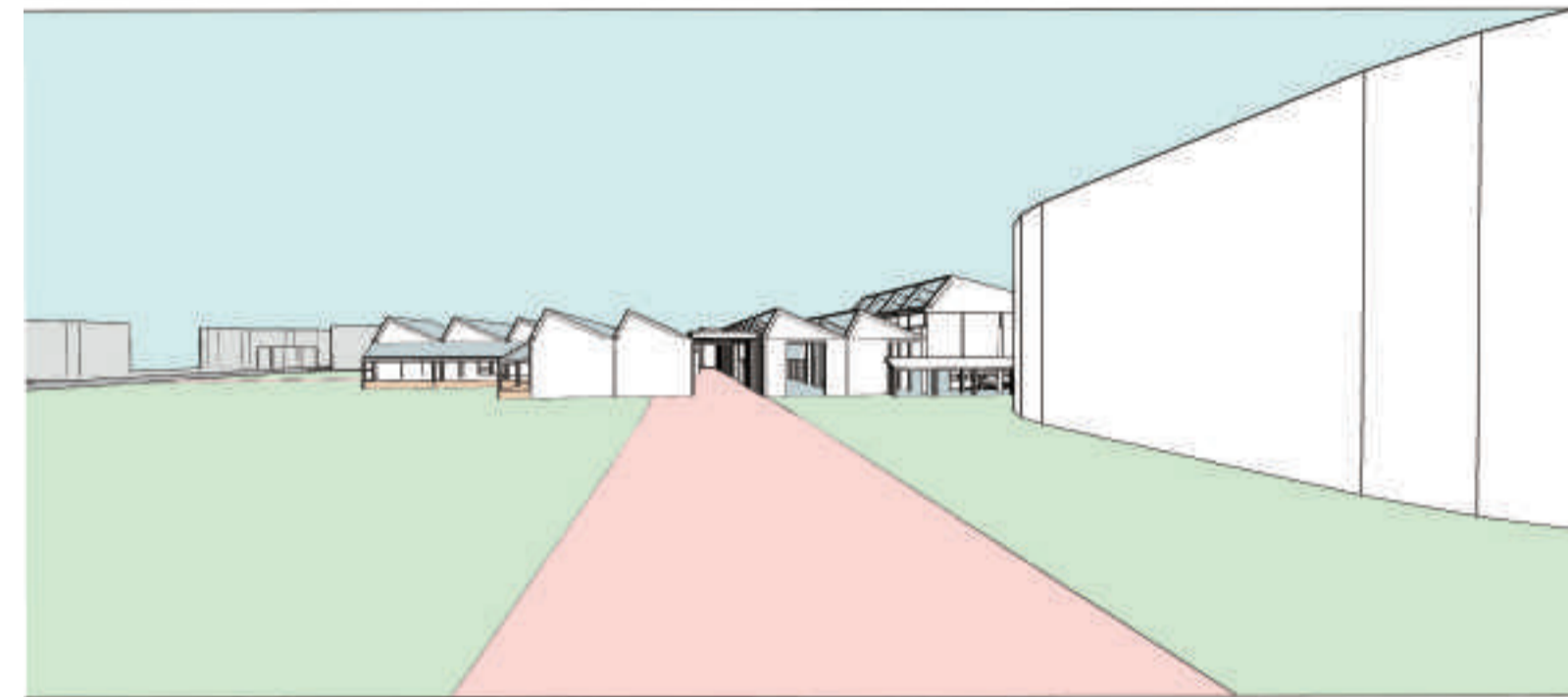
敷地



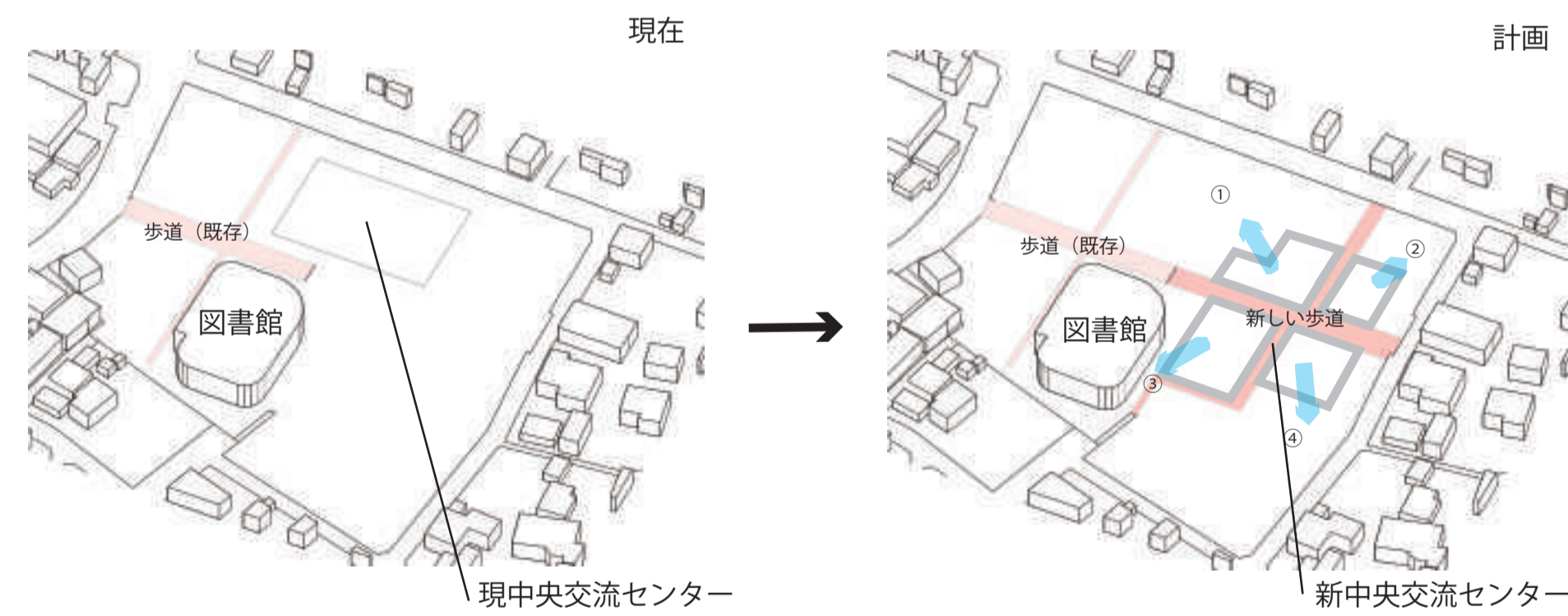
福田の中心に位置していて、敷地内に図書館が、近くには・小学校・こども園・福田支所・郵便局などがある。



配置図 S=1/1600



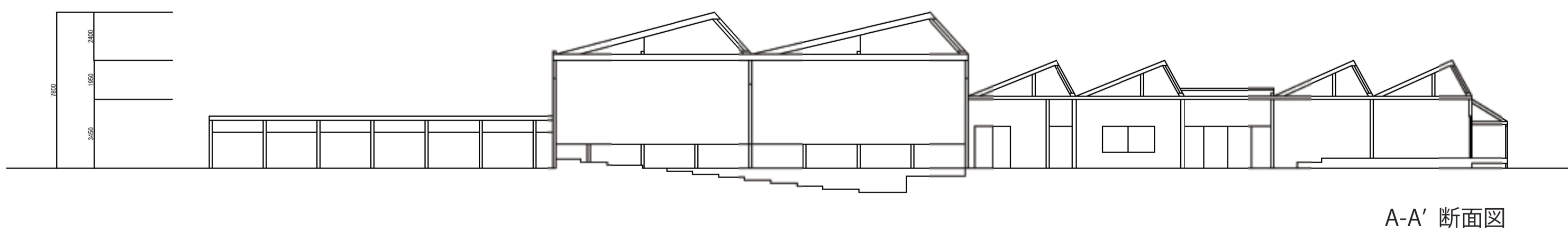
設計プロセス



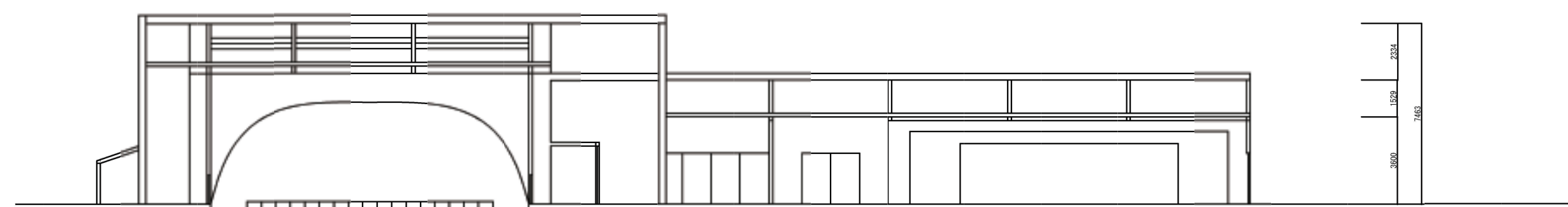
道によって4つの内部空間をつくり、それぞれが外部に対して繋がりを持つ。

- ① 児童クラブの広場
- ② まちの小さな公園
- ③ 図書館とその間の道
- ④ 貸出し室と一体に使える広場

断面図 S=1/200

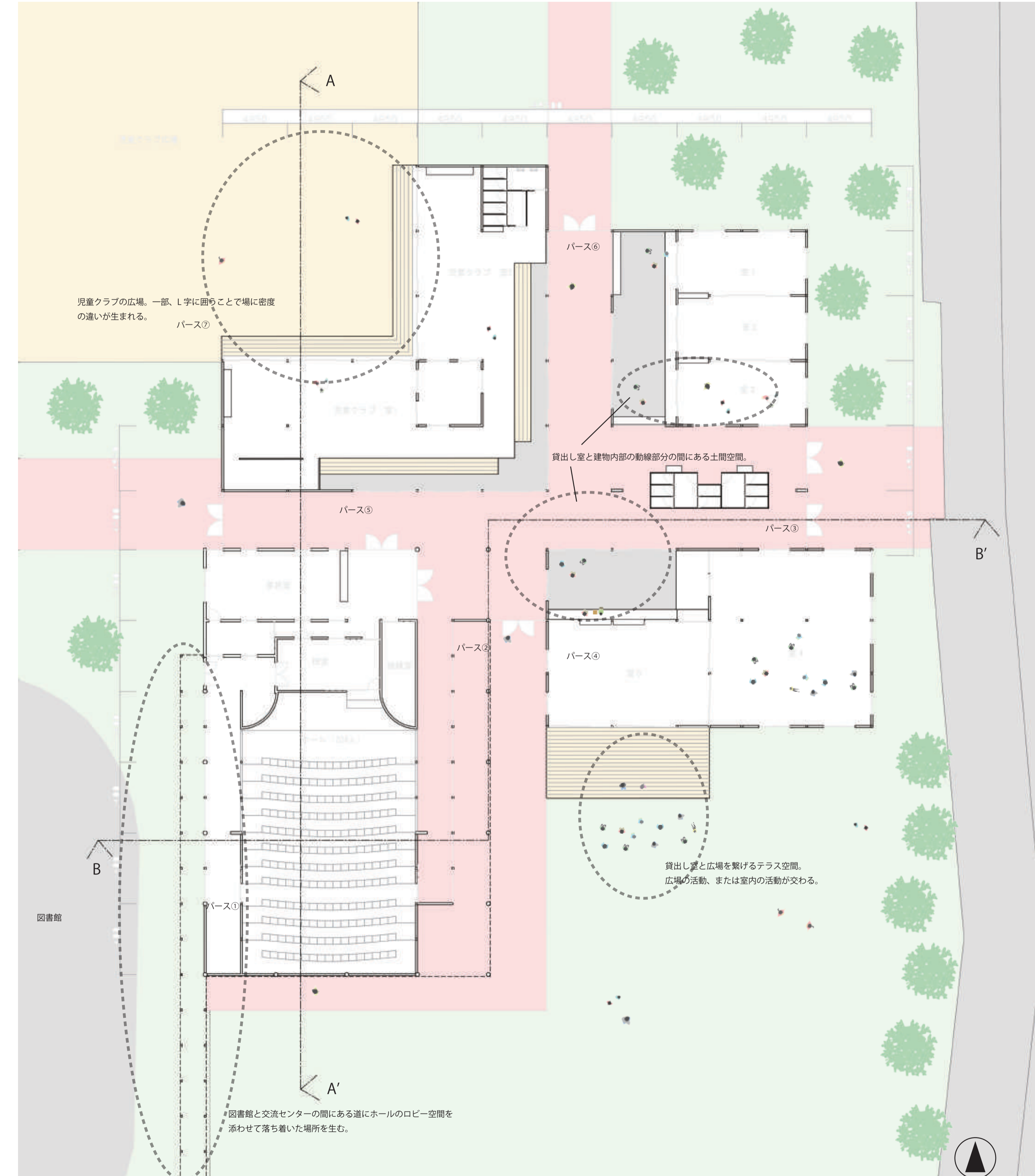


A-A' 断面図



B-B' 断面図

平面図 S=1/200



福田中央交流センター (2)

パース

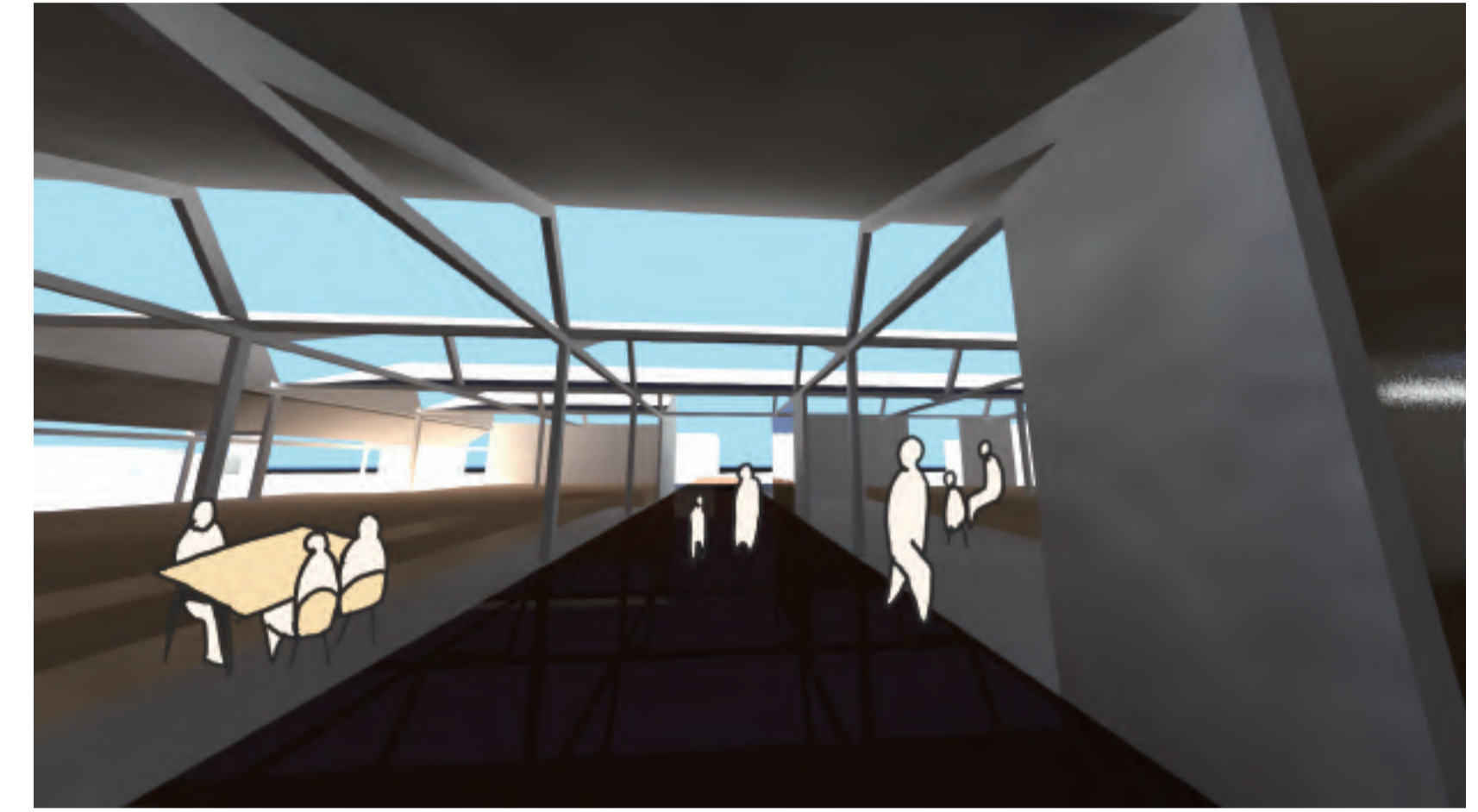
パース①



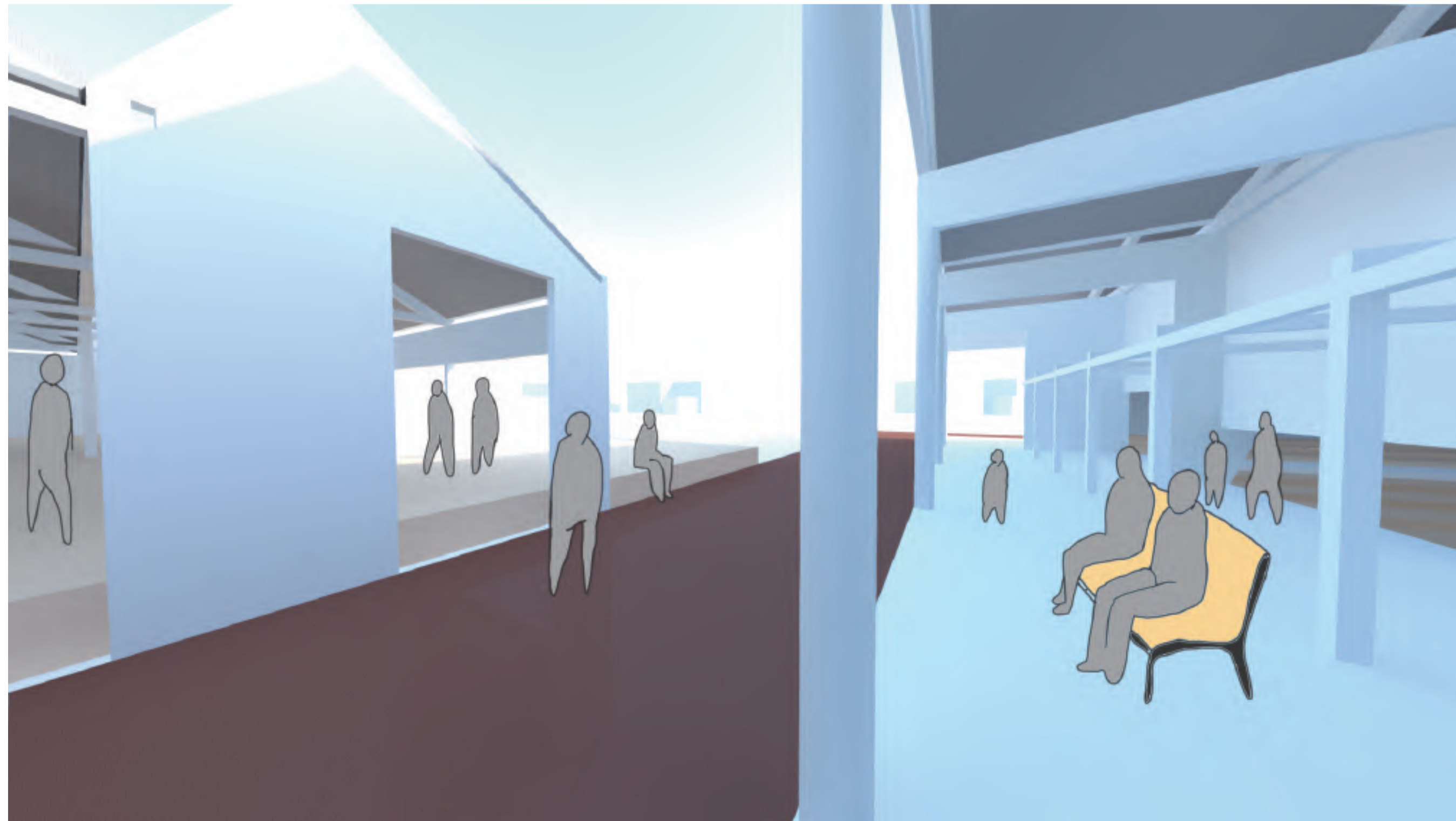
パース③



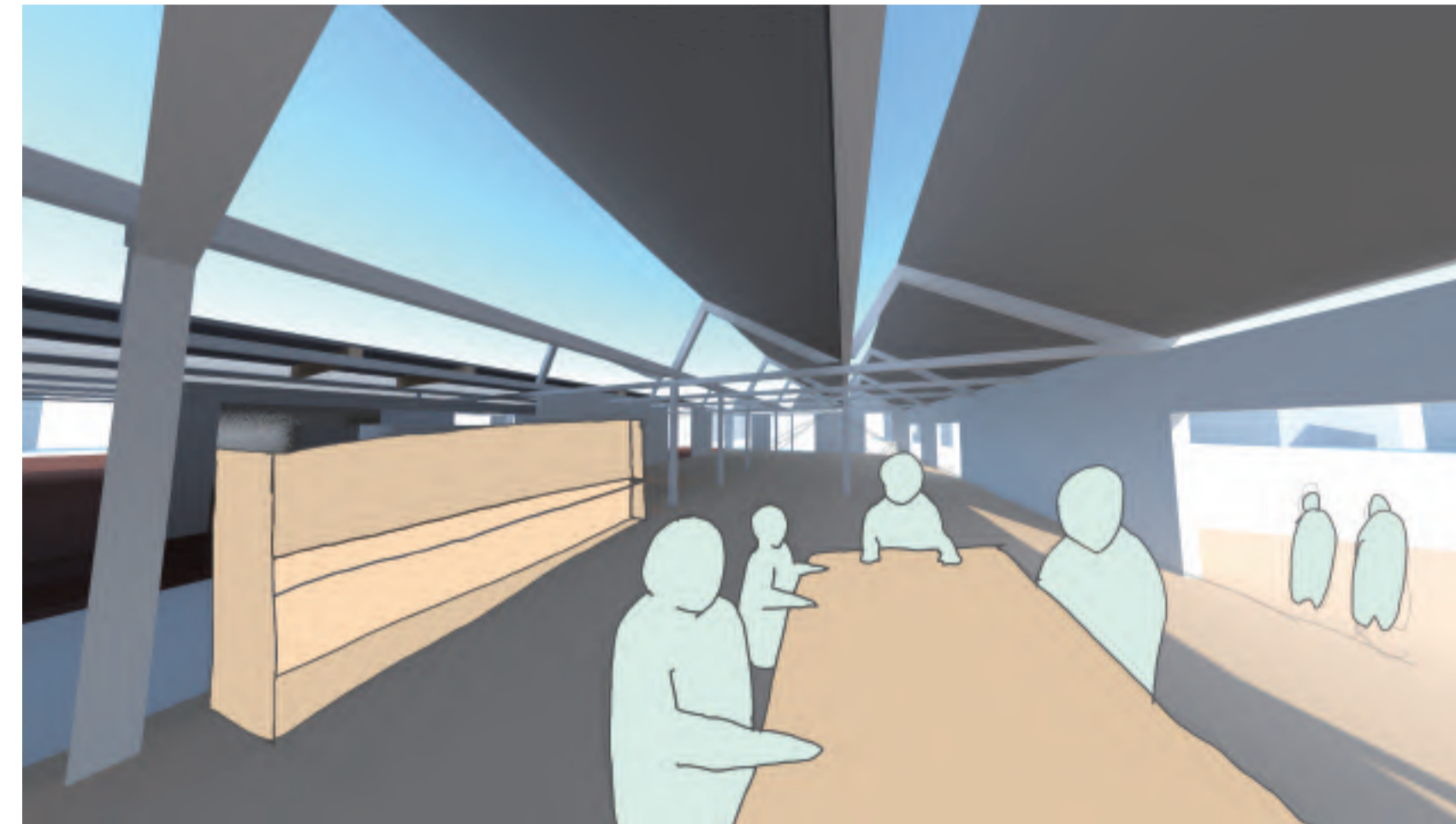
パース⑥



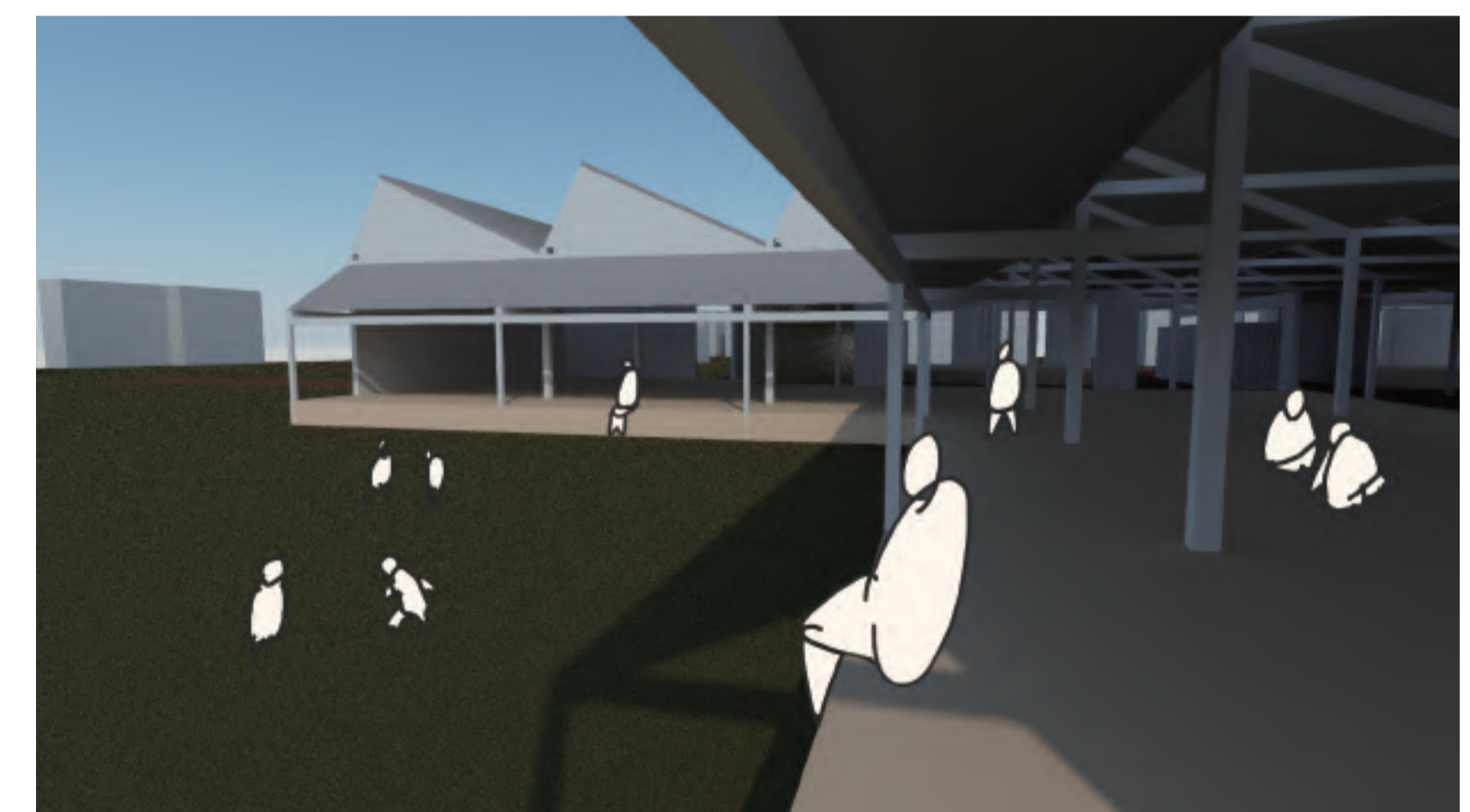
パース②



パース④



パース⑦



パース⑤



設計データ

構造：鉄骨
階数：1階
床面積：2143m²

容積率：0.04%
建ぺい率：0.05%

本計画の起点<中央交流センター&図書館>

この敷地には、磐田市立の図書館と磐市内に23か所ある交流センターのひとつである、「福田中央交流センター」がある。ここではホールや部屋の貸出し、定期的なイベントの開催、福田町内の各自治会の中心地としての業務が行われている。福田町内のノコギリ屋根工場を改装すると同時に、この交流センターを新築することで、このまちのなかで行われる様々な活動がより周辺住民の目に触れ、新しい交流を生むことができる。



磐田市立福田図書館



<あそぶ・まなぶノコギリ屋根>

ノコギリの刃の数(○連):2連
屋根の採光向き:北
規模:261.70m²
敷地:小学校が西側約200m以内にある。道路を挟み、北側には公園・遊歩道があり、子どもの往来が多い場所となっている。
使われ方:子供向けの工作教室や、ボードゲームなどの遊び。



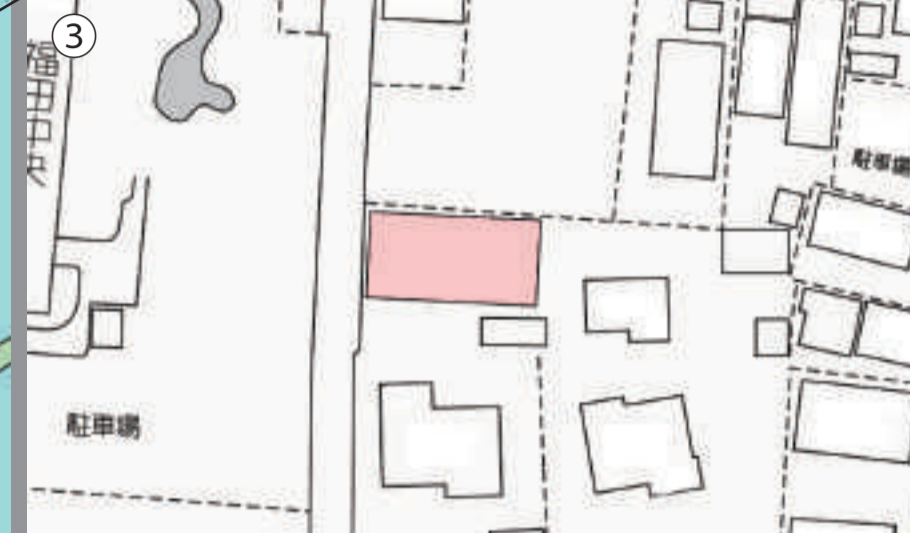
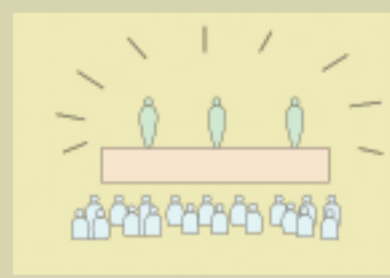
<くふるまうノコギリ屋根>

ノコギリの刃の数(○連):3連
屋根の採光向き:北
規模:149.06m²
敷地:生活道路の交差点に面する工場。周辺に魚屋、スーパーマーケットがある。
使われ方:3つのキッチンがあり、その全てを使い料理教室を行ったり、各キッチンを別の団体が使う。



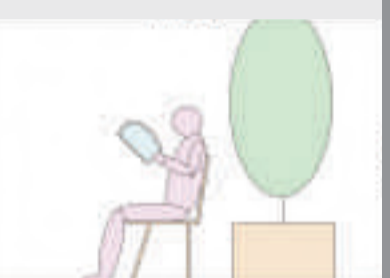
<あつまるノコギリ屋根>

ノコギリの刃の数(○連):4連
屋根の採光向き:南
規模:1F 288.18m²
2F 49.14m² 計337.32m²
敷地:南側約50mに交通量の多い道路があり、そこから少し外れた住宅地にある。
使われ方:音楽や運動系の活動ができる場所で、大人数で集まり広く使われる。



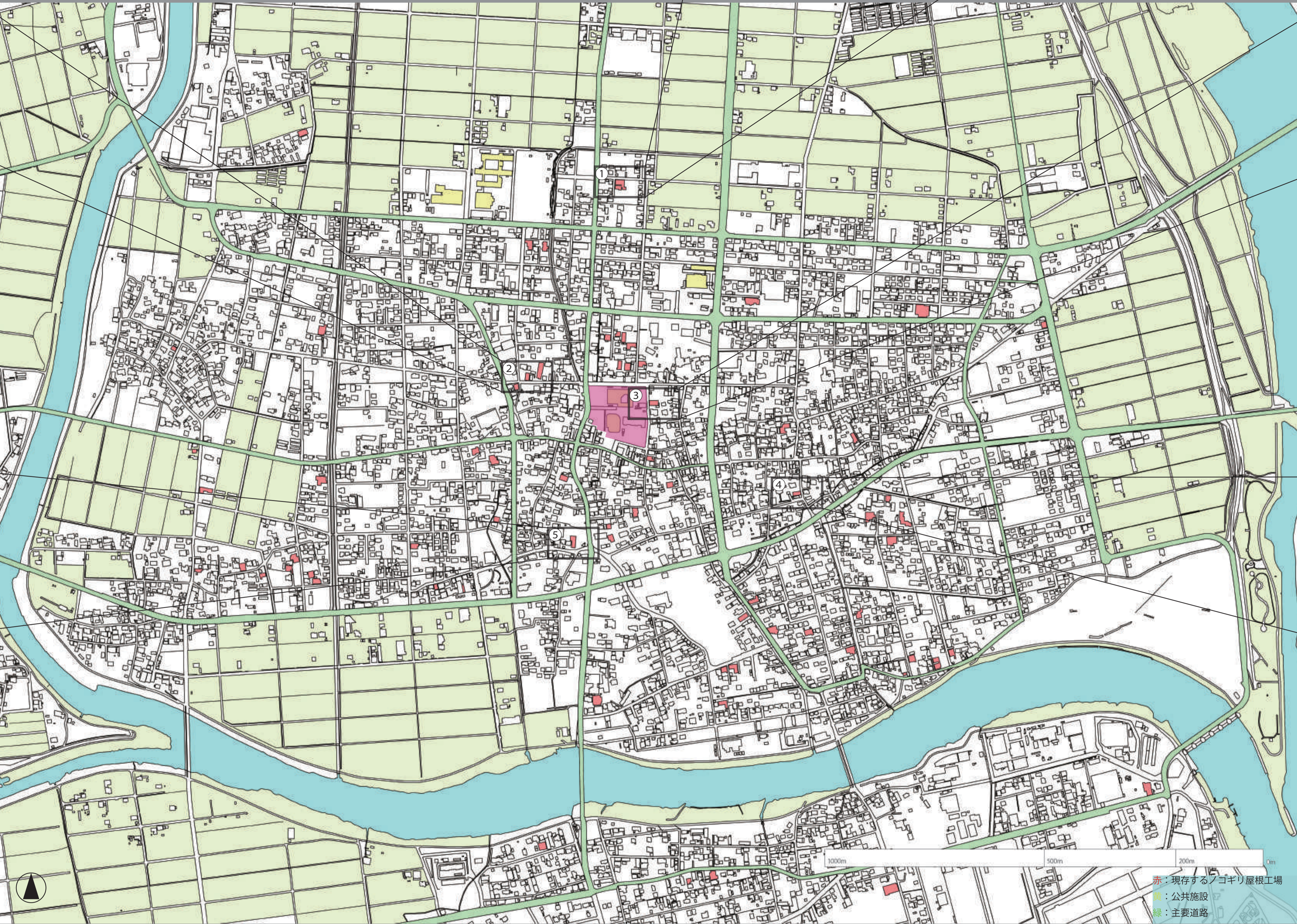
<そだてるノコギリ屋根>

ノコギリの刃の数(○連):2連
屋根の採光向き:北
規模:261.68m²
敷地:道路を挟んで西側に交流センター、図書館がある。使われ方:花壇によって緩やかに仕切られた場所で、本を読んだり植物に水をやったりする。



<ひょうげんするノコギリ屋根>

ノコギリの刃の数(○連):2連
屋根の採光向き:北
規模:165.62m²
敷地:住宅地の一角にある工場で、西側にこの地域の祭典の中心となる神社がある。
使われ方:主に大人向けの工作、芸術活動に使われる。祭典に関する展示も行われる。



赤: 現存するノコギリ屋根工場
黄: 公共施設
緑: 主要道路



1000m 500m 200m 0m